

国立映画アーカイブ開館記念

日本におけるロシア年 2018 **ロシア・ソビエト映画祭**

Inaugurating NFAJ: Russian & Soviet Film Festival at the Year of Russia in Japan 2018

2018年7月10日(火)ー8月5日(日)
国立映画アーカイブ 長瀬記念ホール OZU (2階)



(左上から右へ)『ホヴァンシチナ』、『娘たち』、『話の話』 ©2016 F.S.U.E. C & P SMF, 『僕の村は戦場だった』、『転校生レナ』

国立映画アーカイブでは、「日本におけるロシア年 2018」に合わせ、ロシア文化フェスティバル組織委員会と共同で、当館では12年ぶりとなるロシア・ソビエト映画の特集上映を開催します。文化政策上の転換やそれに伴う創作への制約をたびたび経験しながらも、常に多彩な才能と多様な作品を生み出してきたロシア／ソビエト映画の中から、当館が所蔵する日本語字幕付きモスフィルム作品を中心に、**24プログラム (29作品)** を上映します。

「社会主義リアリズム」時代の作品から、巨匠エイゼンシュテインの作品、チュフライやボンダルチュクら戦後の新しい波、文芸作品の映画化やノルシュテインのアニメーション、そして現代ロシア映画を率いるシャフナザーロフ監督とウチーチェリ監督の最新話題作まで、バラエティ豊かなロシア／ソビエト映画をお楽しみいただける機会となります。会期初めには、ウチーチェリ監督の舞台挨拶も予定しています。ぜひ本特集にご注目いただき、貴媒体でのお取り上げをお願いできますと幸いです。

『アンナ・カレーナ ヴロンスキーの物語』 来日ゲスト変更のお知らせ

当初予定しておりましたカレン・シャフナザーロフ監督の来日は中止となりました。俳優のヴィタリー・キシチエンコさん (アンナの夫カレーニン役) がご登壇されます。

本特集の見どころ

- ロシア／ソビエト最大の映画スタジオ・モスフィルムの特別協力の下、1930～80年代の代表的なソ連映画の数々をまとめて上映。さらに、現代ロシア映画を代表するK・シャフナザーロフ監督とA・ウチーチェリ監督の最新作を、1回のみ特別上映。
- 社会主義リアリズム時代のヒット作から、1950年代の「雪どけ」後の新しい波、オペラ・文芸映画やロマンティック・コメディなどの大衆的なジャンル映画、1980年代のペレストロイカ期の作品など、ロシア／ソビエト映画の歴史的／主題的多様さを体現したラインナップ。
- S・エイゼンシュテイン、M・カラトーゾフ、A・タルコフスキー、Y・ノルシュテイン、A・ゲルマンなど世界的な評価を得た巨匠たちの重要作もラインナップ。
- 24プログラム中19プログラムは、国立映画アーカイブが所蔵する日本語字幕付き35mmプリントによる上映。

◆上映作品リスト (24 プログラム/29 作品) ☆は当館所蔵フィルム

- ☆ 1. マクシムの青春(1935) 監・脚：グリゴリー・コージンツェフ、レオニード・トラウベルグ
- ☆ 2. 最後の夜(1937) 監・脚：ユーリー・ライズマン
- ☆ 3. マクシムの帰還(1937) 監・脚：グリゴリー・コージンツェフ、レオニード・トラウベルグ
- ☆ 4. アレクサンドル・ネフスキー(1938) 監・脚：セルゲイ・エイゼンシュテイン
- ☆ 5. 政府委員(1940) 監：アレクサンドル・ザルビ、ヨシフ・ヘイフィッツ
- ☆ 6. イワン雷帝 第1部(1945) 監・脚：セルゲイ・エイゼンシュテイン
- ☆ 7. イワン雷帝 第2部(1946) 監・脚：セルゲイ・エイゼンシュテイン
- ☆ 8. 鶴は翔んでゆく(1957) 監：ミハイル・カラトゾフ
- ☆ 9. 誓いの休暇(1959) 監・脚：グリゴリー・チュフライ
- ☆ 10. 人間の運命(1959) 監・出：セルゲイ・ボンダルチュク
- ☆ 11. ホヴァンシチナ(1959) 監・脚：ヴェラ・ストロエワ
- ☆ 12. 復活 前篇(1960) 監・脚：ミハイル・シヴェイツェル
- ☆ 13. 娘たち(1962) 監：ユーリー・チュリュキン
- ☆ 14. 復活 後篇(1962) 監・脚：ミハイル・シヴェイツェル
- ☆ 15. 僕の村は戦場だった(1962) 監：アンドレイ・タルコフスキー
- ☆ 16. ユーリー・ノルシュテイン選集
『25日・最初の日』(1968)、『ケルジエネツの戦い』(1971)、『キツネとウサギ』(1973)、
『アオサギとツル』(1974)、『霧の中のハリネズミ』(1975)、『話の話』(1979)
- ☆ 17. 五つの夜に(1979) 監・脚・出：ニキータ・ミハルコフ
- ☆ 18. アンナ・パブロワ(1983) 監・脚：エミリー・ロチャヌー
- ☆ 19. 転校生レナ(1984) 監・脚・出：ロラン・ブイコフ
- ☆ 20. 未来への伝言(1989) 監・脚：アレクサンドル・ミツ
- ☆ 21. 令嬢ターニャ(1989) 監・音：ピョートル・トドロフスキー
- ☆ 22. フルスタリョフ、車を！(1998) 監・脚：アレクセイ・ゲルマン



『鶴は翔んでゆく』



『人間の運命』



『令嬢ターニャ』

23. アンナ・カレニナ ヴロンスキーの物語(2017) 監・脚：カレン・シャフナザーロフ 配給：パンドラ

上映日時：7月10日(火) 6:30pm ※1回の上映 ※特別料金

*上映前にカレン・シャフナザーロフ監督の挨拶があります。

※カレン・シャフナザーロフ監督の来日は中止となりました。

俳優のヴィタリー・キシチェンコさん(アンナの夫カレニン役)がご登壇されます。

【本作品に関するお問い合わせ】

パンドラ Tel: 03-3555-3987 Email: kibou@pan-dora.co.jp

24. マチルダ 禁断の恋(2017) 監：アレクセイ・ウチーチェリ 配給：シンカ

上映日時：7月11日(水) 7:00pm ※1回の上映 ※特別料金

*上映前にアレクセイ・ウチーチェリ監督の挨拶があります。

【本作品に関するお問い合わせ】

○宣伝：ブリッジヘッド 大崎 Email: karen.osaki.senden@gmail.com

○パブリシティ：太秦 斎藤 Email: info@uzumasa-film.com Tel: 03-5367-6073

■国立映画アーカイブ開館記念 日本におけるロシア年2018 ロシア・ソビエト映画祭

Inaugurating NFAJ: Russian & Soviet Film Festival at the Year of Russia in Japan 2018

会期：2018年7月10日(火)～8月5日(日)

会場：国立映画アーカイブ 長瀬記念ホール OZU(2階)

主催：国立映画アーカイブ、ロシア文化フェスティバル組織委員会

特別協力：モスフィルム、株式会社パンドラ、ローク

企画協力：井上徹(エイゼンシュテイン・シネクラブ代表)

料金：一般520円／高校・大学生・シニア310円／小・中学生100円／障害者(付添者は原則1名まで)、国立映画アーカイブ及び東京国立近代美術館のキャンパスメンバーズは無料

※『アンナ・カレニナ ヴロンスキーの物語』と『マチルダ 禁断の恋』のみ下記の特別料金となります。

特別料金：一般1,500円／高校・大学生・シニア1,100円／小・中学生及び障害者(付添者は原則1名まで)520円／国立映画アーカイブ及び東京国立近代美術館のキャンパスメンバーズ料金あり(教職員1,000円／学生900円)

前売券：6月26日(火)10時より、チケットぴあにて全上映回の前売券(全席自由席・各100席分)を販売します。

各上映の前日23時59分まで販売。[Pコード：558-526]

購入方法や発券手数料等の詳細→<http://www.nfaj.go.jp/exhibition/russia201806/#section1-6>

掲載用のお問い合わせ先：03-5777-8600(ハローダイヤル)

本企画ウェブサイト：<http://www.nfaj.go.jp/exhibition/russia201806/>